

連絡先 電話 054-287-7355 FAX 054-287-7356

Eメール Kodaken0620@yahoo.co.jp

今こそ国の悪政から県民の生活を守る「防波堤」としての役割を！

11月9日、県社会保障推進協議会は静岡県と「医療・介護・生保・福祉に関する要請書（37項目）」に基づいて懇談・交渉を行い、7団体から17名が参加しました。日本共産党の鈴木節子元県議も同席しました。

参加者からは全国的な運動によって政府の結論が先延ばしになった介護保険の要介護1、2のサービスの保険給付外し等の問題や介護職員の人材不足で求められるサービスも提供できない現場の声が出されました。また生活保護については、いのちの問題として夏季加算、エアコン設置費用の補助制度の創設、そして無駄な扶養調査の廃止を訴えました。医療費では東海4県で静岡だけとなった重度心身障害（児）者医療費助成制度の窓口負担を無くしてほしいこと、県下35市町中あと7市町となった子ども医療費の窓口負担の500円を県の制度としてなくしてほしいこと。さらに国保料（税）の引き下げを県の財政拠出で、県国保連堂協議会に被保険者の意見を反映させるために、隣の愛知県でもやっている代表委員公募枠を求めました。そして障害を持っていても、入所していても安心して今まで通り医療機関にかかれるよう、健康保険証を残すために国への要望を求めましたが、いずれも前進のない従来通りの回答、若しくは消極的な「国や全国の動きを注視して」という回答に終始しました。



国庫負担を増やし「真の介護の社会化」に向けて運動を広げよう！



10月28日、「人間らしい生活を！いのちを守る第8回 静岡県民のつどい」が、県社保協加盟団体をはじめとした県下の支援団体などでつくる実行委員会の主催で、ロッキーセンター大会議室をメイン会場としてオンライン併用で約60名の参加で行われました。今回は「介護に笑顔と希望を！～史上最悪の介護保険改悪をやめさせるために」をテーマに全日本民医連事務局長次長の林泰則氏の講演と認知症の人と家族の会 静岡県支部副代表 鈴木敦子氏の活動報告を受けて介護の問題を討論しました。林氏は介護保険制度について「高齢化社会の中で財政上持続が不可能になり、財政破綻が避けられないと指摘し、国庫負担割合の引き上げが求められている。真の介護の社会化実現のために請願署名を広げていきましょう」と訴えました。また鈴木氏は認知症の人と家族の会の取り組み、特に安心できる介護保険制度を求める署名（オンライン署名併用）を全国で目標の8万を大きくうわまわる

11万筆を提出し、全国の運動の広がりでも要介護1、2の地域支援事業への移行などを先送りすることができた。なお一層の運動を広げましょう」と訴えました。参加者からは「介護保険で給付と負担を切り離して考えるのは社会保障としては当然のことです」「介護に係る人の給与を大幅に上げて人員を確保して、必要なサービスが提供されるようにしてほしいです」などの感想が出されました。

国保料引下げ署名 最後まで頑張りましょう！

12月11日（月）までに集中を！

〈 県社保協事務所に届けて下さい 〉

あと3週間、目標達成に向けて頑張りましょう！

県社保協 第30回定期総会のお知らせ

日時：2024年2月23日（金・祝日）

13:30～16:30

場所：ロッキーセンター大会議室

※講演についてはまたお知らせします